

表1 1830/31年「世界史の哲学」講義序論草稿の構成

(頁はGW.18. []は草稿にないが筆者が補ったもの)

[I 世界史の哲学とは何か]	
[はじめに]	138-140
[A 理性が世界を統べているという考え、および神の摂理について]	140-151
[B 歴史における精神の実現]	151-
α) 世界史の一般的な規定 [自由の意識における進歩]	152-155
β) 理念を実現する手段	155-171
γ) 歴史の目的を実現する材料 [国家]	171-181
C 世界史の歩み	181-207
[a 発展ということ]	181-186
歴史の始まり]	186-196
[b 世界史の歩み]	196-207

ヘーゲルはこの草稿をもとに講義したが、実際の講義はこのとおりにならなかった。その内容は表2。

表2 1830/31年「世界史の哲学」講義序論 カール・ヘーゲルの筆記録の構成

- [I 世界史の哲学とは何か]
- はじめに
- 1 世界史の究極目的、理性が世界を統べている、歴史の把握
- 2 この目的の詳しい規定
 - a 精神の本性 — 自由
 - b 精神を実現する手段
 - c 究極目的を実現する材料

(ここまでの講義草稿にはほぼ対応)

- 3 世界史の歩み (この項は草稿とかなり異なる)

(以下は、草稿にはない。前の学期の内容を改訂しつつ講義したと思われる。)

- [II 世界史の自然的基礎 — 地理学的考察]
- 1 地理学的三区分
 - ①極地と温帯
 - ②北半球と南半球
 - ③旧世界と新世界 (アメリカとオーストラリア)
- 2 新世界アメリカは「未来の国」として世界史に属さない
- 3 旧世界
 - (1) 風土論的分類
 - ①内陸地
 - ②谷間の平野
 - ③沿岸地域
 - (2) 旧世界の区分
 - ①アフリカ
 - ②アジア
 - ③ヨーロッパ
 - (3) 本来のアフリカ (未開の南部) は世界史に属さない
- [III 世界史の時代区分]
- ①東洋
- ②ギリシャ
- ③ローマ
- ④ゲルマン

ここで序論が終了し、本論の第1部 東洋世界に移る。